

・会議録の確認：星野委員に依頼

議題「(1) 地域活動支援事業 ①採択結果の報告について」事務局に報告を求める。

【野口係長】

・採択結果一覧表により報告

【吉田会長】

今の説明に質疑を求める。

(発言なし)

次に「②制度の振り返りと見直し」に入る。ここからは大竹副会長から進行していただくことでよいか。

(「よし」の声)

【大竹副会長】

地域活動支援事業の審査・採択を行う中で、委員の皆さんが疑問を持たれたり、改善が必要だと感じた部分もあると思う。審査・採択の際に感じたことについて意見を出していただきたい。今年度の審査・採択のルールについて事務局に説明を求める。

【野口係長】

・資料No.1により説明

【山田センター長】

・参考資料により説明

【大竹副会長】

今の説明に質疑を求める。

【鷺澤委員】

質問ではないが、3月に行った地域活動支援事業の事前説明会から総括していただくとありがたい。

【大竹副会長】

事前説明会への意見等を求める。

【鷺澤委員】

説明会のときに、他の自治区からの参加者から質問が出たが、事務局が答えていたので、これからは三役で答えてもらいたいし、できるだけ協議会委員で運営を行いたい。

【大竹副会長】

さて、これから来年度の採択方針や審査方法等を決める際に生かして行くために、フリートーク形式で全体を通しての皆さんの意見を発言していただきたい。

【田沢委員】

今年度、初めて行ったプレゼンテーションでは、文書以外に、実際の物品や写真等を直に見られたのがよかったと思う。

【今井委員】

プレゼンテーションについては、田沢委員と同感である。ただ、希望制で行ったので、全ての団体のプレゼンテーションを見たかった。

個人的に今回の全体の流れで思ったことは、「評価の低い事業」とする基準で、委員の3分の2以上が不適合と判断した場合とあるが、もう一度見直してもよいと思う。採点結果を見たときに、点数順になっているのだが、真ん中の順位の事業で、不適合というのは意外と多かったので、議論してもよいと思った。

採択にあたり、全員がたたき台を作成し、金額をどのように配分するか悩む経験はとてもよかった。委員全員分のコピーが配布されたときに、読み込む時間が欲しかった。思った以上に皆さんが書いてあることが多かったので、その内容をもっと反映させれば、さらに説得力のある結果になったと思うので、そこだけ少し残念だった。そこをさらに突き詰めていければよいと思う。

【大竹副会長】

適合か不適合は点数付けとは別に捉えていただきたい。

【田中委員】

減額案は会議の前に提出したが、次からは2日前くらい前に配布されれば、委員の考えた案をゆっくり検討できるので、今後はそのようにしてもらいたい。

【橋本委員】

減額をするときに、どの項目を減らしてよいかを皆さんと協議したが、そのときは件数が多く、時間が差し迫った状況のなかで、雑な判断があった気がする。提案者の思いを汲みきれていない議論の末の判断があったのが残念である。

提案に対して、改善案等が見えてきて、ブラッシュアップしたい気持ちが出てくるだろうが、提案者の考えは協議会委員とは別の考えである。提案者の考えをどれだけ尊重できるかは、何度やっても難しいと感じた。協議会が提案者に改善を課するような権限はないので、そこら辺を委員は改めて理解し、共有したほうがよいと思った。

【大竹副会長】

相手の立場も考えていかなければいけないという意見だ。

【藤田委員】

今年度のようなやり方だと少しわかってきた部分があり、ありがたかった。減額された提案団体は、これで事業ができるのかなという思いもあったのだが、事務局説明にて全ての団体が減額を承知したことを聞き、安心した。

【鷺澤委員】

今まで6年間の協議会委員の中で、プレゼンテーションの説明を協議会委員が自ら行ったのは、始めてのことだったし、パワーポイントの中の写真に協議会委員が数名写っていた。今までは、提案団体に協議会委員が所属している場合には、なるべく発言を控えて、別な人が対応するかたちで行ってきた。協議会委員がプレゼンテーションを行うことは、公平公正ということから不可解な感じがした。

市民大学で、地域協議会のことについて協議しているが、地域活動支援事業の提案団体に所属している委員は採点に加わらないほうがよいとの意見も出ている。委員がどうあるべきかを、今一度考えていただきたい。

また、プレゼンテーションは質問をしてはいけないということだったが、質問をしたかった。是非、プレゼンテーションでは質問を許可していただきたい。

【大竹副会長】

それぞれ団体に所属していても、各個人として協議会委員になっているので、その辺は踏まえていただきたい。

【野澤委員】

人の発言の自由を奪うという、権利を制限することは法的根拠が必要である。そもそも、地域協議会には公正な運営が求められていると思う。表現の自由は日本国憲法の第21条に記されているので、そのような発言は、人の発言の自由を奪うのではないか。

【今井委員】

鷺澤委員は、野澤委員の行ったパワーポイントでのプレゼンテーションを例にとって、“り か かんむり ただ 冠を正さず”（誤解を招くような行動はすべきではない。）というのを言っただけだと思う。

【星野委員】

今回は、町内会長さんも含め、事前説明会が行われたのはよかった。いろいろな補助金制度があるが、それを理解していない人は多いので、補助金制度の一覧表みたいなものを市で作成して配布したらよいと思う。

また、事業内容の種類が8つの項目に分かれているが、「高齢者」「子どもの関係」「社会環境の関係」「町内関係」の4項目くらいがよいと思う。メリハリをつけて、毎年度テーマを決めて優先採択を考えないと、毎年同じような事業と順位になるのではないかと思うので、メリハリ付けた採択制度もよいのではないかと思う。

【吉田実委員】

地域活動支援事業の審査を協議会が担うことは疑問に思っている。受け入れられない話だろうが、ある程度同じ土俵でしっかり審査する機関が必要だと思う。今後心配なことは、地域活動支援事業はいつまであるかの保証はないので、補助金のあるうちに、自己資金で自立できる環境にしていかなければいけないと心配している。

春日振興商工会からの提案イベントは特に期待している。謙信公祭以外でも地元の人が参加して盛り上げて行ってほしいと思う。

【新野委員】

そもそも補助金とは、地域やまちづくりの活性化にとって大切である。地域活動支援事業の中で補助金の申請にあたっての考え方はどのような範囲なのか、基準をはっきりさせたほうがよいと思う。補助事業はいつまでもあるわけではないので、補助金のあるうちに力を培って、次代につないでいく礎になると思う。広く住民の皆さんにもお知らせする方法があるのではないかと思う。

【谷委員】

過去の提案団体や事業の一覧から見えたことは、春日山城跡周辺のチップ舗装は費用が多く掛かっているが、その後どのように生かされているのか、有効活用されているのかを考えると、今現在の有効性は認められないのではないかと思う。

春日商工振興会については、どこの観光地に行っても観光と商工はついて回って連携をとっていくものだが、採択されたものの、効果的には残念な結果である。今後は、費用対効果や有効性を見極めていく必要があるのではないかと思う。

木田新田町内会からの提案だが、少ない人数の町内会が、高い町内会費を払いながらも、青年会や子供会を立ち上げたとのことが評価できる。1つの団体を立ち上げて行動することは大変な努力だと思う。そのような一生懸命に努力している町内からの30

万円の申請の中で10万円程度を減額したが、全額支援するべきだったと思う。内容を見極めたうえで、採択する必要があると思う。

また、地域活動支援事業で購入した備品の使い方についても、旗を立てっぱなしにして、古くなったらまた購入すればよいとか、そのような使い方にも工夫が必要かと思った。

【大竹副会長】

費用対効果は本当に大切だと思う。実績報告も3月頃までには出るので、皆さんで検証していったらよいと思う。

【金子委員】

提案内容が立派で驚いた。また、質問事項を3班に分かれてまとめたことは、非常によかったと思う。採択後、減額された提案者からは「減額されたが何とかやっていく。」とお礼を言われたことがあった。満額採択の提案者からは「これからも地域の発展のためにやっていきたい。」との話も聞いた。

鷺澤委員から話が出たが、私は、地域において春日山城跡保存整備促進協議会の理事をやっている。春日山でどのような活動をしているのかを知ってもらったうえで採点しないと、皆さんも間違った方向で点数を付けてしまうと思うので、発言したかったが、審査の内規により擁護する発言はできなかった。また、町内会の防犯パトロールにおいても隊長をしているし、交通安全協会の春日支部長もやっている。そのようなことで、協議会委員の中で提案事業に無関係の方は3分の1もいないのではないかと思う。皆さん何か何かに携わって活動をされていると思う。それぞれいろいろな活動をしていても、一個人として平等に物事を見て考えてやっていけばよいと思う。意見を控えるとか、あまり質問してはいけないということは、しないほうがよいと思うので、今後は質問や意見を言っていきたい。

【太田委員】

私も、提案事業のバレーボールクラブに自分の子どもがお世話になっているし、春日商工振興会の会員でもあるし、上越後群龍隊の創立メンバーである。他にも関わっている部分があったので、今年度はあまり意見を言わないようにしていた。昨年度は、自分の所属しているところには、何かプラスになることを言ってあげたいと思って発言をしたことは反省点だったからだ。関係している人ばかりではないので、関係している団体への発言はやはり控えたほうがよいと思う。ただ、一個人でもあるので、他

の提案団体に聞きたいことや分からないことは意見してよいと思うが、自分の属しているところの意見は言わないほうが誤解を生まないためにもよいと思う。

3月頃に実績報告が配布されると思うが、それは協議会委員しか目にしない。皆さんの仕事が増えるが、おたよりのようなかたちで、提案団体の活動内容や報告をしたらよいと思う。子どもの係わっている団体は、野球もバレーボールもバスケットもあるし、運動に係わっている人でなければなかなか情報を得ることができない。採択した事業は応援してあげて、地域に広めてあげたらよいと思った。

【安楽委員】

「減額案検討シート」にて、各委員が主体性をもって考えることができてよかった。また、他の委員の減額案も参考になり、来年度以降に生かしたいと思い、協議会委員としてのやる気も起きた。配布時期はもう少し早めにして、各委員の考えを自分の中に取り入れる期間は必要だと思った。

さまざまな団体からの申請内容を見ると、町内会で対応できる団体等もあったので、該当団体には、他の補助金を検討してもらうのもよいと思った。

プレゼンテーションのやり方で、協議会委員自身が行うのはどうかという意見もあった。団体に所属する委員がプレゼンテーションをするのはよいとは思いますが、市民目線で公平性を欠くと言うのであれば、団体に所属する委員がプレゼンテーションをするのは自粛するかたちを取るのもよいと思った。

【鷺澤委員】

先ほど、言論封殺や、表現の自由に反している等の意見があったが、そのようなつもりはない。委員がプレゼンターとして説明を行うのは、協議会にも非常に影響が大きいと思うからだ。団体に所属している人で、他の人が代わりに説明をすればよいだけである。

【谷委員】

若い力を借りてやることも可能かと思う。御館川の史跡広場の辺りも地域住民に聞くと、草がボウボウになっていて、人手がいなくてなかなか手入れができていない。地域によってはきれいにして花を植えているところもあるので、協議会委員が所属している提案団体と意見交換を行うことによって、委員自身が協力していけるのではないかと思う。地域の力を引っ張り出せるようなことを協議できるとよいと思う。

【大竹副会長】

今後3つの分科会に分かれて自主的審議を行うが、そういう場を活用して進めていきたいと思う。

【田沢委員】

いろいろな話を聞いていて、“青少年”というキーワードが出てきている。来年度の採択方針を決めるときに、青少年という文言を入れることを検討したらよいと思った。

【今井委員】

協議会委員と提案団体がかぶっていることの是非を議論するよりも、愛媛県の獣医学部の問題や、大湊区の体操アリーナの問題等と同じ構図だということを頭に入れておいた方がよいと思う。要は、税金の使途の透明性がどうかということだ。自分が団体に所属している人の意見は、言い方によっては間違いなく誤解される。最初から利益を誘導する人もいるかもしれない。事前説明会で直江津区のかつて地域協議会長が意見を言っていたが、外から見ると春日区はそういうふうに見えるということも事実なので、春日区地域協議会として考えて結論を出さなければいけないと思う。

【大竹副会長】

皆さんが真剣に地域活動支援事業のことを考えていると感じている。熱い心を次回の採択方針の決定にもっていけたらよいと思う。この辺で、振り返りを終わりにし、会長に議長を戻す。

【吉田会長】

「②制度の振り返りと見直し」は終了する。

「その他（１）日程調整について」事務局に説明を求める。

【野口係長】

- ・日程について説明

【吉田会長】

- ・次回の協議会：8月10日（木）午後6時30分から 上越市役所401会議室
事務局にその他の連絡をお願いする。

【野口係長】

- ・当日配布資料により自主的審議の班分けについて説明

【吉田会長】

班分けの中で第2希望になっている委員が2人いるが、ご容赦いただきたい。

【吉田会長】

皆さん、何か連絡等あればお願いします。

【鷺澤委員】

この会議も2年目を迎えているので、来年度からは基本的には会長から司会進行をやっていただきたいと思います。司会をやる場合には自分の意見を控えて、行事役をやってもらいたい。

【今井委員】

情報提供になるが、視察の件で、直江津区は富岡製紙工場に行ったと聞いた。また、浦川原区は地域活動支援事業の現場を視察するそうである。春日区でも視察を計画するのならば是非参加したいと思う。

【吉田実委員】

自主的審議について、分科会で進めることは初めての試みである。正副会長と事務局で各分科会の進め方のたたき台を作って示していただきたい。視察に関しても、全員同じ場所でなくても、分科会のテーマごとに視察も行ってよいのではないかなと思う。そこら辺もうまく進めていただきたい。

【吉田会長】

分科会の進め方というそもそもの入口から、各委員の間で話し合っただけで検討していただきたいと考えているが、事務局と三役で話し合っただけで決めていきたい。

【星野委員】

会議とは関係のない話になるが、先日の豪雨のときの防災ラジオで、“春日区”と“春日地区”との区別を一般の方に分かるように周知していただきたい。また、分かるような資料が欲しい。

【野口係長】

危機管理課に申し送りをしておく。

【田沢委員】

防災ラジオで最初に機械音が入って、大きな音が鳴るのだが、心臓の弱い人にはびっくりするのではないかなという話がでているがどうか。

【野口係長】

市としては、情報を正確に伝え、生命・身体・財産を守ることが使命だと思っている。最大公約数を取れば、大きな音ではっきりと伝えることが大事になる。あとは、個々の判断で設置場所等工夫していただければよいと思う。

【山田センター長】

危機管理課に申し送りをしておく。

【田沢委員】

お願いしたい。

【吉田会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。